

「情報科学」っておもしろい

情報科学研究科では「学びたい」という意欲を持った全ての人をお待ちしています



Q. 情報科学を学びたい人にひと言

自分のアンテナに素直に進んでみてはどうでしょう。これが目に留まった時点で、まったくアンテナに触れていないわけではないはずです。
この業界は懐が深いので、小さなきっかけで入ってきたとしても、様々な角度から磨きをかけていくことができます。
また、社会とのつながりが強いので、新しい興味を見出すヒントもたくさんあると思います。

兵庫県立大学大学院
情報科学研究科
円谷 友英 教授

Q. 情報科学の道へ進んだ理由は？

3、4年生ゼミの指導教官が女性だったこと、リーマンショックの影響で就職状況が低迷していたことが大きな理由です。
私の出身学部・大学院は文系ですので、博士前期課程への内部進学率は1%程度、進学した半数が大学教員になりました。一般企業への就職や公務員試験の受験も検討しましたが、3年生時の「女性でも自分のやりたいように仕事ができ、楽しそうだ」という印象により大学院へ進学し、今の職に就きました。

兵庫県立大学大学院
情報科学研究科
岩本 菜々 助教



Q. 今、頑張っていることは？

M1の時に二級建築士資格を取得し、今はさらに高度な資格である一級建築士の資格を取得するための勉強に力を入れています。
研究ではコンピュータを用いた時刻歴応答解析手法と経験的手法の両方を用いた新たな視点から地震に対する建築物の被害予測を行う研究を進めています。研究内容は建築士試験の内容と通ずるところが多くあり、相互の知識を役立てながら資格勉強と研究活動を両立させています。

博士前期課程
本田 理奈 さん



Q. 大学院に入って良かったことは？

就職活動において、日本のモノづくりにシミュレーション技術を取り入れることは必須であり、高度な計算・解析が出来る人材がこれまで以上に求められていると感じました。
また、シミュレーション分野の専門教育を受けにくる学生は、バックグラウンドが多岐に渡っているため、知識だけでなく人脈も広がりました。

2019年度 修了
松本 葵 さん

